

令和8年度 俳句の集い

作成 佐藤修

- 1 年3回の句会 6月4日(木) 10月1日(木) 2月4日(木) 毎回13:30～
- 2 会 場 川口市立並木公民館
- 3 その他の事業 句集作成 俳句吟行会 研修会 他の句会との交流等



句集「柏葉」は、平成5年度から作成され現在19冊保管されています。(欠番1～4、6、10集)

平成30年度以降、コロナ感染により休刊していますが、今後復刊を考えています。

令和8年度会員

会長 中村剛毅

理事 大山孝一

幹事・関根要造 高橋利昌 佐藤修

会員 横田保 倉林隆 平瀬韶子 山下絢一

小林憲一 泉章司 坂本大典 土屋賢治

初心の方でも、経験豊富な先輩の丁寧な指導が受けられます。気軽にご入会ください。

令和八年度 第一回俳句の集い 優秀句

◎鳥帰る駄菓子屋閉じる婆の背な

関根 要造

娘一人他人の庭のこいのぼり

関根 要造

田を植えてはや夕風のゆすりおる

中村 剛毅

味噌汁の温みに梅雨の坊泊まり

倉林 隆

梅干しの干し場残して空家かな

横田 保

田植え終え見上げる先に光堂

佐藤 修

命日に亡き父母思い一人酒

大山 孝一

若葉雨駄菓子屋に小さき忌中札

関根 要造

故郷の香の溢れくる新茶汲む

倉林 隆

三人のをとこに足れり冷二合

横田 保

路地裏を行き交う日傘江戸しぐさ

土屋 賢治

一人が四句をハガキで投句し、二十七句集まりました。

当日出席者が自分以外の句を八句ずつ選句し、一句を推薦句とします。

選句は一点、推薦句を二点として、合計点で当日の最高得点を決めます。今回は六点で◎印の句です。二点以上の句を掲載しています。投句者には、全句の点数と投句者を記し郵送しています。

令和7年度 俳句の集い

作成 佐藤修

- 1 年3回の句会 6月5日(木) 10月2日(木) 2月5日(木) 毎回13:30～
- 2 会 場 川口市立教育研究所芝園分室
- 3 その他の事業 句集作成 俳句吟行会 研修会 他の句会との交流等



句集「柏葉」は、平成5年度から作成され現在第26号まで20冊保管されています。

(欠番1～4、6、10号)

令和元年度以降、コロナ感染により休刊していますが、今後復刊を考えています。

令和7年度会員

会長 中村剛毅

理事 山下紘一 幹事 大山孝一・関根要造

会員 横田保 倉林隆 平瀬韶子 小林憲一

佐藤修 泉章司 坂本大典 高橋利昌

土屋賢治

初心の方でも、経験豊富な先輩の丁寧な指導が受けられます。気軽にご入会ください。

令和7年度 第三回俳句の集い 優秀句

◎初勤行朗々と僧火照りおる

中村 剛毅

落日の色置く池や凍りゆく

関根 要造

荷を解けば故郷の匂ひ冬ぬくし

倉林 隆

八十路越ゆ支えられつつ去年今年

関根 要造

教え子の文字の代はりの初電話

横田 保

行く末の健やか願うゆず湯かな

佐藤 修

七草の胃の腑に沁みる里の滋味

中村 剛毅

メールにて雑煮の指南新所帯

倉林 隆

進歩遅々今年は如何初句会

横田 保

着飾って二十歳の集い年始め

中村 剛毅

手になじむ在りしを磨く鍬始め

中村 剛毅

散歩道空き家に蔦枯る煉瓦塀

土屋 賢治

一人が四句をハガキで投句し、三十六句集まりました。

当日五人の出席者が自分以外の句を八句ずつ選句し、一句を推薦句とします。

選句は一点、推薦句を二点として、合計点で当日の最高得点を決めます。今回は六点で◎印の句です。二点以上の句を掲載しています。出席者による合評会での全句のコメントと点数を投句者に郵送しています。

令和七年度 第二回俳句の集い 優秀句

◎世話好きの峽の人情零余子飯

主なしや秋の風鈴にぶく鳴る

倉林 隆

漾々の夜涼に舫う船溜り

小林 憲一

ガリ版の追悼文集終戦忌

中村 剛毅

穏やかに妻の忌修す秋彼岸

関根 要造

夕風に心静まる旅の宿

中村 剛毅

故郷捨てし少年八十路の墓洗う

泉 章司

この町に何時しか馴染み新走

関根 要造

立ち読みの拾い読みする秋の夜

倉林 隆

夕の土間どさりと甘藷ならべおく

横田 保

一人が四句をハガキで投句し、三十六句集まりました。

今回、五人の会員が自分以外の投句者を伏した句を八句

ずつ選句し、一句を推薦句とします。

選句は一点、推薦句を二点として合計点で、当日の最高

得点を決めます。今回は六点で◎印の句です。二点以上の

句を掲載しています。投句者には、全句の点数と投句者を

記し郵送しています。

令和七年度 第一回俳句の集い 優秀句

◎行く春や生家に残るかまど跡

麦の秋一人乗る駅降りる駅

関根 要造

清明に青空のどか雲ひとつ

倉林 隆

倒されてなほ咲き誇る桜かな

佐藤 修

師の句碑をなぞる指先春日さす

泉 章司

夏立つや半袖の腕まだ白く

関根 要造

客去れど香は居残るやかしわ餅

小林 憲一

おぼろ月今宵夜桜なお映えて

土屋 賢治

甘茶汲む弥勒の指を真似てみる

泉 章司

祭り終え灯る渡船場川下る

倉林 隆

隠れ茶房林のはづれ木下闇

中村 剛毅

書斎窓葦簀の奥に一の谷

横田 保

一人が四句をハガキで投句し、四十句集まりました。

当日五人の出席者が自分以外の句を八句ずつ選句

し一句を推薦句とします。

選句は一点推薦句を二点として、合計点で当日の

最高得点を決めます。今回は六点で◎印の句です。

二点以上の句を掲載しています。出席者による合評

会での全句のコメントと点数を投句者を記し郵送し

ています。